



ロータリーは 分かちあいの心

2007～2008年度
国際ロータリーのテーマ
ウィルフリッドJ.ウィルキンソン

会長／関野政人 幹事／山本讓二

DISTRICT 2510 JAPAN

留萌ロータリークラブ 会報

2007▶2008 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

みんなロータリーが好きだから
出会いを創造し活性しよう

プログラム

- 本日
「留萌RC創立47周年記念夜間例会」
親睦活動委員会担当
- 次週予定
新春卓話「ーるもいの未来ーパート 2」
北海道議会議員 石塚 正寛様

ご夫人誕生日
2月13日 高田美保子

No. 2314
第29回 2月13日



前例会
 会員総数……………49名
 出免会員……………3名
 欠席会員……………16名
 出席率……………65.22%

前々会
 第26回 1月23日
 欠席会員……………11名
 メイクアップ……………1名
 修正出席率……………79.17%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

✍️ 会長報告 ……………

- 昨日第8回定例理事会を開催し、1月収支報告、2月活動計画を承認いたしました。また大変残念ですが、西田剛正会員、坂井智会員の退会を承認いたしました。

👤 幹事報告 ……………

- 1) 2008～2009年度版ロータリー手帳の申し込み案内が来ております。希望者は幹事まで。
- 2) 国際ロータリー日本事務局あてに人頭分担保金および第2510地区に一般地区資金・特別地区資金等を支払いました。
- 3) 砂川RCより2月の例会案内がきております。
- 4) 遅くなりましたが、後期会員証を配付いた

しました。

👤 委員会報告 ……………

国際奉仕委員会 森(幹)委員長
 地区世界社会奉仕委員会よりWCS検証・視察ツアーのご案内が届いております。留萌クラブも参加した2007～2008年度の世界社会奉仕事業で、タイのノンカイ地区の水飲み場に浄水器を作る事業で、5月16日～23日の予定で現地を視察いたします。21日帰国するパターンの日程もありますので、是非参加して下さいとのことです。5月16日～23日でタイ、インドネシアをまわり費用30万円と、16日～21日のタイだけの視察ツアーで、20万円のコースもございます。申し込みは2月29日です。国際奉仕委員会まで申し込み下さい。

 3分間情報……………

会員研修委員会 河部副委員長
ニコニコ箱(BOX)について -その1-

ニコニコ箱の起源については、大阪説と東京説の双方がありますが、大阪についてはその詳細が書かれた資料を見たことがありませんので、東京が最初という前提でご紹介いたします。

1936年9月30日、東京クラブの関幸重が、玉川園の孤児300名を招待するために、ありあわせの紙箱を回して募金をしたのがその起源だと言われています。その後、関が発起人となって毎例会に箱を回して、誕生、祝いごと、慶事に何がしかの喜捨を求めて、この制度がニコニコ箱として定着しました。当初使っていた紙箱は、その後三越に特注した木箱に代わりましたが、その箱にはニコニコ顔の本家本元である恵比寿の顔が彫られていました。任意の喜捨ですから、その金額は自由ですが、初期の相場は5円で、1950年ごろは500円だったそうです。

アメリカを始め諸外国にはニコニコ箱に類するものとして罰金箱と目的を定めた募金箱があります。罰金箱は、欠席、早退とかのペナルティを集める制度であり、目的を定めずに募金をする日本のニコニコ箱とは若干違います。奉仕活動をするための資金集めは、会員了解を得た上で目的を定めて、その目的のために帽子を回すのが諸外国のやり方ようです。

日本のニコニコ箱は目的なしの募金活動であり、前年度の？績の範囲内で予算化して、次年度の対社会的奉仕活動の原資にするのが一般的です。義務的とは言わないものの、自分の身に起きたいろいろの喜びごとの度に1000円程度の醸金をするわけですから、あまり抵抗もなく、年間を通じればかなりの金額が集まります。

(「ロータリー探究」から)

 ニコニコBOX……………

- 明日還暦を迎えます 高田会員
- 3月2日に開催されます第10回萌っこ春待里のカンパ券販売にご協力いただきありがとうございます 萌っこ春待里実行委員会

前 回	718,000円
今 回	12,000円
累 計	730,000円

 プログラム……………

(先週の続き)

「年男大いに語る」 道会員
まだまだ若いつもりでいましたが、今年還暦を迎える年齢になったことに自分自身が一番驚いております。

振り返りますと、私がロータリークラブに入会したのが、32歳の時でした。その当時の会長さんが坂井清さん、幹事さんが平井誠治さん、会員増強委員長が今は亡き富山パストガバナーで、会員も110名を超えるクラブでもありました。会員の顔を覚えるだけで1年以上もかかった記憶がございます。今年でロータリー歴が28年になり、その間恒例になっております年男大いに語るのプログラムも36歳、48歳の子年に2度、演壇に立ってスピーチをさせられた記憶がございます。今回でロータリー入会以来3度目の年男を大きな病も無く健康で迎えることが出来ました事はうれしい限りです。

様々な職業が集う唯一のクラブという事で、その中で知り合った数々の方々が今や私にとっては人生の財産となっており、ロータリーの友情に支えられながらようやくここまでたどり着いたとも感じております。48歳の時、どんなお話しをしたか記憶にありませんが、留萌クラブからガバナーを輩出して数年が経過し、地区役員も何人が留萌から出向していた時代でした。留萌経済もまだまだ安定期の時代で、クラブ会員数も多かった記憶がございます。10年一昔という言葉がありますが、十二支一巡で留萌を取

巻く環境が大きく変わってきた事を実感しております。

私も議員活動に専念させていただいて、早いもので10年が経過いたしました。留萌市においては財政の建て直しや、支庁再編の波など様々な課題が山積し、留萌経済も非常に厳しい環境におかれております。ロータリー創世記のアメリカのシカゴを思い起こすと言ったら大げさかも知れませんが…それほど大変な時代かもしれません。60歳の還暦を迎える事になりますが、新たな十二支のスタートの年、平成20年こそ留萌市にとって少しでも明るさが見える年になれるよう、これからも一生懸命活動してまいりたいと考えております。留萌クラブ、並びに会員皆様におかれましても、今年1年良い年でありますようお願い申し上げます。



眩 惑

加地民一会員の随筆より

クラブの奉仕活動の活力は、時計の振子のようにある時は過ぎてみたり、次の時には、元へ戻ったりを繰り返しながら、全体としてはバランスを保って、前へ前へと進んで行くように思われる。従って大きく前進するときは、振子の揺れ動きも大きく、行き過ぎ幅も大きいことが多い。裏を返せば、揺れ動きを、そして行き過ぎを恐れては、大きな前進は望めないのかも知れない。

そして、もう一方に次のような考えがある。大きく前進する必要はない。小さな確実なステップを積み重ねることこそが本来の姿であり、それが真の発展につながる道であると。底流に、後者の一見保守的な、しかし地道な努力があって、その底流が前者の奔放な行動性を支えるという見事な調和が、留萌クラブの現在の隆盛を産んだのだと思う。

我々は今、振幅の大きな振り子の派手さだけに眩惑されてはいないか。眼に立つ派手さにしか眼がいかないのは、受けとる側の批判力の衰弱であり、神経の老化である。留萌クラブの会員の知性が、いつまでも若々しく、みずみずしくあり続けることを祈り、且つ信じたい。

国際奉仕委員会担当例会「世界社会奉仕について」



タイ・ノンカイ地区の水のみ場

クリーン ウォーター プロジェクト イン ノンカイの検証報告

世界社会奉仕委員長 出村 知佳子

タイ東北地区では以前より水質の悪化、乾季の際の水源の確保に苦しんでおります。これまで村人達は雨水を溜めて飲料水に利用してきました。小学校での古い水装置もこの雨水を貯留するものでした。

この地区では、井戸を設置しましても、地形の関係で塩水しか出てこず、この貯留式の水も大変不衛生な状況がますます酷くなっており、また、メコン河流域のこの地区は地球温暖化による海面上昇による逆流現象や中国近代化による工業排水の増加の影響を大きく受け、急速に水質が悪化している現状です。

こうした状況下でこの浄水装置がない学校の子供達は学校で水を飲むことが出来ておりません。一部の比較的家計に余裕のあるお子さんは水よりも安価な濃い色のついた清涼飲料水を持ってこられますが、これも僅かな人数で健康的な飲み物ではありません。

この浄水装置を設置することにより、子供達だけでなく、集落の人々が飲料水を手にすることが出来、その効果は大変大きなものです。

また、浄水場に掲げられたロータリーマークとスポンサークラブの名前の浄水器からの水を飲み、子供達・村人・現地ロータリアンと分かち合う感動は大変大きなものがあります。

留萌RCの浄水装置を、今回の例会で見ていただく予定でしたが、現場の工事が雨で遅れ気味で、まだ完成しておりません。そこで、検証報告は昨年行われました、白老RC・札幌北RC・江別西RC・千歳セントラルRCの検証の様子と、タイ国のTVニュースも合わせて紹介させていただきます。
